

# 令和2(2020)年度 若杉作業所事業報告

## 1. 事業概要

コロナに始まりコロナで終わった1年であり、その影響は未曾有のものであった。

その中で、従来からの、利用者のニーズや障害特性に応じた個別支援計画を作成し、それに基づく余暇活動、生産活動等の取り組みを通じて日々の生活リズムの安定を図り、心身の健康を維持しながら、一人ひとりの人生における生きがいをめざす支援や、職員の人権及びコンプライアンスの意識を高めるための研修、セルフチェックリストの活用等は維持強化を図った。

## 2. 事業所運営

### 1) 施設整備等

新型コロナウイルス感染症対策(以下「コロナ対策」と言う。)として支給された国の緊急包括支援事業補助金を利用して食堂等の換気扇6台、非接触型体温計等を購入した。また、中止になった行事予算を食堂の椅子の買い替えに充てた。

### 2) 職員構成

令和3年3月31日現在 (名)

管理者	サービス管理責任者	支援員	事務員	嘱託医	看護師	計
1	1	6(2)	1	(1)	(1)	9(4)

※( )…非常勤職員:外数 ※管理者・事務員は、相談支援事業所わかすぎと兼務

### 3) 会議

#### ・法人・事業所内会議

会議名	内 容	開催	構成
法人運営会議	理事長、常務理事、管理者等が、運営課題等及び各事業所の情報を共有化するための会議を行った。	原則 月1回	理事長、 常務理事等
職員会議	事業所内の支援の現状や課題等の検討、研修報告、行事及び運営の方向性等について協議した。	毎月1回	所内職員
ケース検討 会議	利用者の支援上の諸問題に関する検討を行った。 利用者の個別支援計画の実施状況の確認と、今後の計画の検討を行った。	随時 8月・2月	所内職員
支援会議	より充実した利用者のための支援のあり方を検討し、プログラムの見直しなどを検討した。	2回	所内サビ 管、支援員
虐待防止 委員会	職員の人権意識の向上など職場での虐待防止に努めるために開催した。	1回	所内委員3 名
ハラスメント 防止委員会	職場でのハラスメントの防止とその適切な対応に努めるため開催した。	1回	所内委員 3 名
感染防止委員会	新型コロナウイルス感染症等の防止やコロナ対策BCP計画を話し合うために開催した。	3回	所内委員 5 名

#### ・外部団体主催会議

#### 4) 職員研修

人権等の知識や技術の向上のため、オンライン等の各種研修に積極的に参加した。

月	参加者	研修名	主催	形式
7	生活支援員 2 名	新型コロナウイルス感染症への対応に関する研修会	県知的障害者福祉協会	オンライン
	管理者・サビ管	管理者研修(これからの福祉について)	県知的障害者福祉協会	オンライン
9	管理者	第1回経営者・施設長セミナー(人材採用定着ノウハウ)	市社協	オンライン
	生活支援員	権利擁護研修	名古屋市等	オンライン
10	生活支援員	初任者研修	県知的障害者福祉協会等	オンライン
	生活支援員	ファシリテーション研修	名古屋市等	オンライン
	生活支援員	感染症防止研修	名障連	オンライン
	サビ管	管理者・サビ管研修(新型コロナへの取り組み)	名古屋市等	オンライン
11	サビ管	親亡き後問題セミナー	県弁護士会	オンライン
	生活支援員	多職種連携研修	名古屋市等	オンライン
	管理者	BCP 計画研修	名古屋市等	オンライン
	サビ管	第2回経営者・施設長セミナー(災害時の福祉支援活動)	市社協	オンライン
12	サビ管	東海地区知的障害関係施設長等研究協議会	県知的障害者福祉協会等	オンライン
1	管理者	第3回経営者・施設長セミナー(メンタルヘルス・個人情報)	市社協	オンライン
	生活支援員	メンタルヘルス研修	名古屋市等	オンライン
	管理者	県社協等合同研修会(新型コロナウイルス感染症)	県社協	ビデオ
	管理者	福祉サービス苦情相談事業研修会	市社協	オンライン
	管理者・サビ管	新型コロナウイルス対策 Web セミナー	市社協	ビデオ
	サビ管	高齢障害者研修	県知的障害者福祉協会	オンライン
	管理者	コロナ対策 Web セミナー	市社協	ビデオ
2	生活支援員	スーパービジョン実践研修	名古屋市等	オンライン
	管理者	権利擁護研修会	県知的障害者福祉協会	オンライン
	生活支援員	第28回東海・北陸ブロック社会福祉実習研究大会	ソーシャルワーク研究協議会	オンライン
3	管理者	虐待防止研修	名古屋市等	オンライン
	管理者	福祉介護職場環境改善研修	県社協	ビデオ
	管理者	県社協等合同研究会(新型コロナウイルス感染症)	県社協等	ビデオ
	生活支援員	サビ管更新研修	愛知県	オンライン

#### 5) 年間行事

実施日	行事名	内容
4月1日(月)	新年度はじまりの会	年度初めに新規利用者の紹介、全職員挨拶、年間予定の説明を行った。(参加利用者35名)
5月予定	フットベースボール交流会	コロナ対策により中止。
6月予定	日帰りバス旅行	コロナ対策により中止。
7月予定	流しそうめん大会	コロナ対策により中止。
8月予定	平針福祉会法人夏祭り	コロナ対策により中止。

11月予定	若杉まつり	コロナ対策により中止。
12月25日(金)	クリスマスランチ会	リース作りとレクリエーションは中止し、ステーキ弁当の後、ケーキとプレゼントで楽しんだ。(参加利用者35名)
1月15日(金)	新年会	豪華な幕の内弁当とケーキを食し、うちわ羽子板を作って楽しんだ。(参加利用者36名)

### 6)防火・防災管理

利用者の安全を最優先課題とし、避難体制の強化を図った。コロナ対策の上防災訓練を繰り返すことで、火災・地震両災害時における利用者の防災意識の向上をめざした。

月	訓練項目等	実施内容	備考
4	防災対策会議 消防用設備定期点検①	年間計画と各職員の防災上の役割を確認した。 消防用設備等の総合点検を実施した。	職員 <small>(株)新日本コーポレーション</small>
7	防災避難訓練 (地震想定)	31日(金)に実施。作業時間中の地震発生を想定し、安全確保と確認を迅速に行った。(参加者 45名)	利用者、職員
8	防災避難訓練 (火災想定)	26日(水)に実施。活動時間中の火災発生を想定し、安全確保と確認を迅速に行った。(参加者 44名)	利用者、職員
9	情報伝達訓練 防災会議 防災総合避難訓練	4日(金)市健康福祉局防災訓練(情報伝達)参加。 災害時の対応、役割分担等を確認した。 30日(水)休憩時間中の地震とそれに伴う火災を想定した避難訓練を実施。休憩中の安全確保、確認における課題が判明した。(参加者 47名)	管理者、事務 全職員 利用者、職員
10	消防用設備定期点検② 消火器配置変更 自主点検	消防用設備等の機能点検を実施した。 事業所内の消火器配置を変更した。 自主検査表に基づき、建物、消防設備を点検した。	<small>(株)新日本コーポレーション</small> 担当職員 担当職員、管理者
11	防災避難訓練 (地震想定)	20日(金)に実施。活動時間中の地震発生を想定し、安全確保と確認を迅速に行った。(参加者 45名)	利用者、職員
1	防災避難訓練 (火災想定)	26日(火)に実施。休憩時間中の火災発生を想定し、安全確保と確認を迅速に行った。(参加者 46名)	利用者、職員、実 習生
3	自主点検	自主点検表に基づき、建物、消防設備を点検した。	担当職員、管理者

### 7)健康管理

コロナ対策のため検温・体調チェックを毎朝行った。看護師による毎月の体重測定と体調面の確認や、年2回の尿検査及び嘱託医(水谷クリニック)による年2回(9月・2月)の内科検診を行った。また、昼食時など服薬や歯磨きの支援を行った。

### 3. 支援概要

コロナ対策として、来所・昼食時の手指消毒、朝・帰りの会を各作業室で行ったり、昼食については時間をずらし、食堂だけでなく作業室も利用する等の工夫を行った。

#### 1)日課

8:30～ 9:10	9:10～ 9:30	9:30～ 10:40	10:50～ 12:00	12:00～ 13:00	13:00～ 14:10	14:20～ 15:30	15:30～ 16:00	16:00～ 17:00
朝の打合せ 利用者通所	朝の会 ラジオ体操	活動A	活動B	昼食(休憩)	活動C	活動D	清掃 利用者の会	帰りの打合せ・記録等

## 2) 各種活動支援

利用者個々が選択し、週間プログラムとして実施することで、一人一人の興味や志向を確認したり、持っている社会生活能力等を引き出すことをめざした。

### ◎余暇活動

#### ○音楽活動

カラオケの他、踊り、音楽鑑賞の時間をつくった。好きな曲を選択し、歌以外でも楽器で参加したり、聴いて満足する人、からだを揺らす人など様々な形で楽しさを表現した。

#### ○踊り活動(音楽活動)

毎月第3木曜日に植田南学区の婦人会から盆踊りの先生に来ていただいているが、コロナ対策のため中止となることが多かった。

#### ○創作活動

工作、絵画、塗り絵、切り絵、習字などの活動を通して、各個人の能力を引き出し、各自のペースを尊重しつつ、リラックスした雰囲気の中で取り組めるようにした。

#### ○七宝活動(創作活動)

毎月第3火曜日に七宝の先生、ボランティアの保護者にお手伝いいただいて七宝作品を作成しているが、コロナ対策のため今年度は開催できなかった。

#### ○お菓子クッキング活動

材料の準備運搬から食器の片づけまで、各利用者の成長を見ながら、様々な作業に携わり、自分たちで作ってそれを食することの尊さを味わった。

#### ○ドライブ活動

利用者の希望も取り入れながら、街中や郊外の季節や風景の移り変わりを楽しんだ。また、参加者同士での会話や、好きな音楽をBGMとして楽しむ場面もみられた。

#### ○軽スポーツ活動

コロナ対策のため密になる場所を避けて近隣の神社や公園をめざした。また、所内で風船バレーや紙コップタワーなど楽しんで体を動かす活動を行った。

#### ○所外活動

C、Dの2時限を使い、健康増進やリラックス効果を目的に、密になる場所を避け少し遠出して様々な場所に出かけることを楽しんだ。

#### ○工賃支給日・誕生日会

毎月の工賃支給日に、菓子・飲み物で日々の労をねぎらった。また、第1金曜日にプレゼントをお渡しするなどの誕生日会を催した。

### ◎生産活動（作業）

社会的自立をめざす一環として、個別支援計画に沿って、個々の適性に応じた作業工程を提供している。

#### ○ゴミ袋セット(粗品)作り作業

市指定ゴミ袋を折りたたみ、ラベルとともにラッピング袋に入れる作業を行った。自主製品として昭和・瑞穂区を中心とした区役所、関連団体、会社などから受注している。

#### ○箸の袋詰め作業

受注・納品により、ロゴ入り箸袋に割り箸を入れて袋詰めする作業に取り組んだ。箸の表裏の確認や百膳を数える作業、ビニール袋にきれいに詰め込む作業に取り組んだ。

#### ○箱折り作業

業者の材料の持ち込み、製品回収により、贈答用の箱を折る作業に取り組んだ。折り目に沿ってきれいに形づくる確実性が求められ、熱心に取り組む利用者もみえる。

#### ○釘袋入れ作業

受注納品により、釘類を指定通り袋に詰め、シールを貼りホチキス止する工程や、釘にシールを貼りまとめる工程に取り組んだ。経験を積むことにより、できる作業を増やした。

#### ○自動販売機を中心とした飲料販売

昨年度8月に玄関に飲料自動販売機を設置し、缶類の補充やメンテナンスを作業として行い、その売上を工賃にした。

#### ○アルミ缶回収作業

事業所前に回収カゴを設置し、近隣の方に入れていただいたアルミ缶を、選別して袋詰めする作業に取り組み、リサイクル業者に回収を依頼している。

### 3) 工賃について

平均工賃・・・ 792 円／月（31年度 1,521 円／月 30年度 1,194 円／月）

今年度はコロナウイルスの影響により、受注が大幅に減り、大きな減収となった。工賃を楽しみにしている利用者も少なくないことから、工賃の増加を図っていきたい。

### 4. その他の諸活動について

#### 1) 利用体験・教育実習・施設見学の受け入れ

コロナ禍の影響のため、実習・見学等については中止あるいは縮小して行った。

#### ○利用体験実習

在宅または就学中の障害者を対象に、生活介護事業所での体験を通じて学校卒業後などの日中の過ごし方について考える機会を提供した。

天白養護学校	1名	女性 1名
南養護学校	1名	男性 1名

#### ○教育実習

大学・専門学校等で学ぶ学生に、施設としてその目的に沿った実習の場を提供した。

社会福祉士実習 (相談援助実習)	2名	日本福祉大学中央福祉専門学校通信課程 2名
---------------------	----	-----------------------

○施設見学

今年度は受け入れの打診はなかった。

○福祉体験活動

今年度は受け入れの打診はなかった。

2) ボランティアの受け入れ

今年度は、コロナ対策のため、長年継続されている七宝及び踊り活動の講師をはじめとして、ボランティアの受け入れはほとんどできなかった。

余暇活動	延べ6名	踊り活動講師
------	------	--------

3) 広報活動

広報紙として「若杉通信」を年4回発行した。これから利用を考えている方、小中学校の実習生、見学に来られる方々にも分かりやすくするためにルビを振ったパンフレットを使用した。

5. 利用者の状況

1) 入所者・退所者状況(定員 40名)

各月末現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
利用者数	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
利用実績	25.3	34.2	34.2	34.0	33.5	34.4	33.4	33.9	34.1	34.0	34.4	34.3

\*年間平均出席人数 33.3名 開所日数 241日 利用率 83.2%

※利用実績の4、5、1、2月は居宅支援を含む。4月10日の県緊急事態宣言時、国の宣言発令時は利用を控える旨案内したところ、23の方が登所を控えられた。4月末に電話により通常と同等のサービスを提供の場合は報酬の対象として認められることとされ、この居宅支援により大幅な落ち込みを防いだ。なお、1、2月の対象者は毎金曜日の1名のみだった。

2) 年齢別利用者状況

令和3年3月31日現在

性別	年齢(歳)	~20	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45	46~50	51~	計	平均年齢

男性(名)	1	7	6	4	0	3	2	6	29	35.6歳
女性(名)	0	1	2	0	0	3	1	4	11	42.6歳
計(名)	1	8	8	4	0	6	3	10	40	37.5歳

\*最年少 … 20歳      最高齢 … 68歳

### 3)利用期間別

令和3年3月31日現在

性別 \ 期間	1年未満	1~3年未満	3~5年未満	5~7年未満	7~10年未満	10年以上	計
男性(名)	0	1	6	2	4	16	29
女性(名)	0	1	3	0	2	5	11
計(名)	0	2	9	2	6	21	40

\*最長利用期間 … 男性:33年3か月      女性:39年4か月

### 4)障害別

令和3年3月31日現在

性別 \ 障害	知的	身体	精神	てんかん	自閉症	ダウン症	その他
男性(名)	29	2	0	4	13	5	0
女性(名)	11	1	1	2	1	2	0
計(名)	40	3	1	6	14	7	0

### 5)障害支援区分別

令和3年3月31日現在

障害支援区分	1	2	3	4	5	6	計
人数(名)	0	0	2	21	10	7	40